



長崎被災協・被爆二世の会・長崎

二世の会ニュース

NO.12

発行日
2015年
11月11日

〒852-8115 長崎市岡町8-20 被災協気付

☎ 095-844-0958

hisaikyo2sei@yahoo.co.jp 

被爆70年記念集会

「親子で考える 被爆者からのメッセージ—継承・警鐘—」

8月1日(土) 13:30~16:00 長崎原爆資料館ホールにて被爆70年記念集会「親子で考える 被爆者からのメッセージ—継承・警鐘—」を開催し、220名が参加しました。

オープニングでは被爆二世で長崎出身の作曲家大島ミチルさんのメッセージと共に、大島さんが被爆70年に向けて作曲された「祈り」を長崎南山小学校コーラス部の子ども達40人に披露してもらいました。心を洗われる美しい平和の歌声でした。

大島ミチルさんより集会へ温かい激励のメッセージをいただき会場で披露しました。



続いて「私にとっての被爆70年とは」という演題で熊本県被団協顧問の中山高光氏が記念講演を行いました。

「戦争を始めた日本の責任、アジアをはじめ多くの国々に被害を与えたことの謝罪をおこなってから被爆体験を話す」と中山氏は言います。それはペルーで生まれ、戦争によって翻弄された両親の生活からも言えることでした。



中山さんの真摯な証言は今回のNP T代表で訪問した米国の中学校の生徒たちや、NGO 団体「世界経済フォーラム」職員たちの中で中国人を夫に持つ日本人の心にも深く響きました。中山さんが歩んでこられた被爆者運動の歴史、人生観に触れることができた有意義な講演でした。



被爆二世の会・長崎、諫早の会会員10名が「被爆者からのメッセージ」(NPT 再検討会議に向けての訴えの冊子)から抜粋した、被爆者の願いを心をこめて読み上げました。

そのあと、平和、戦争、継承、警鐘について、コーディネーターの横山照子理事の問いかけから、パネラーの高校生、大学生、青年、被爆二世の大宮美喜夫さんの4人が意見を出し合い、交流し、ともに考えるというパネルディスカッションを行いました。



若い人たちの真剣な発言に被爆者たちは元気をもらい、参加者たちも大いに刺激を受けました。



二世の会では地元の小学校の学童クラブの子どもたちと今年3月から月1度、この集会に向けて平和の取り組みを行ってきました。高校生1万人署名のメンバーや NPT 代表の長大生に参加してもらい、ともに被爆体験を聞き、意見を出し合い交流を深めました。



4月に被爆70年集会を共催でおこなうことを決め、実行委員会を被災協と二世の会で立ち上げ、話し合いを重ねました。

子どもたちはこの日に向け、3つの学童クラブのそれぞれ自分たちで考えて作った「ぼくたち、わたしたちの平和宣言」を集会の最後に発表し



てくれました。多くの方々のご協力のおかげで被爆70年にふさわしい「継承、警鐘」について考える集会をおこなうことができました。会場アンケートには「若い世代とともに構成された良い集会だった」「またこのような会を続けてほしい」などと書かれていました。



長崎市生まれ
国立音楽大学卒業
在学中から作曲家として活動を開始する。
グラミー賞、毎日映画コンクール音楽賞、日本アカデミー最優秀音楽賞など、多数受賞。
映画やNHKドラマなどに音楽を提供。
また吉永小百合さんの原爆詩の朗読の音楽を作曲するなど幅広く活躍中。

メッセージ

私は子どもの頃から教会に行くのが習慣でした。それは大人になった今でも同じです。そして教会で祈るのはいつも「平和」です。それと家族の健康です。そして私にとって音楽とは祈ることでもあります。

祈りは平和を願う音楽であり歌でもある・・・私自身の日々の思いを音楽にしました。何よりも子どもたちが作ってくださった詞が素晴らしい！

被爆二世として被爆70年と言う年に重みを感じています。

被爆者が高齢になって来ている今、二世として何が出来るか？どう伝えて行くのか？

被爆者自身が語るほどの説得力が自分にはありません。だからこそより良い方法を考えなければいけないと思っています。

被爆二世として、長い目で、これから私たちが何をやって行くことが大切か皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。

一人の力は微々たるものですが、沢山の平和を願う人の気持ちが溢れています。世界中、繋がっていると思うと沢山のパワーをもらえるような気がします。

被爆二世の会の日々の活動を心から尊敬していますし、これからのご活躍も微力ながら応援しています。

今、世界で「平和」について力強く話が出るのは長崎と広島だけです。そして過去～現在～未来と時間は続いて行きます。

だからこそこうやって親子でのイベントが一番大切なものだと思います。語り伝えることの大切さを私自身も強く感じています。そして素晴らしいイベントになることを心から祈っています。

大島 ミチル

長崎原爆記念日、献花式と平和祈念式典に参列



去る8月9日（日）午前9時より爆心地公園において「二世の会・長崎」と「二世の会・諫早」合同で献花式を行いました。この献花式は、会結成以来、毎年長崎原爆祈念式典の前に行っているものです。今年は、長崎・諫早合わせて12名参加。落下中心碑の前で、黙とうと献花を行い、長崎の佐藤会長と諫早の高屋事務局長から、「被爆70年を迎えてこれから更に二世のみなさんへの期待が高まってきているので、益々のご協力をお願いします。」と挨拶しました。

その後、すぐに平和公園の方に移動し、平和祈念式典に参列しました。今年は被爆70年の節目の年の式典ということで、日本全国さらには世界各国からたくさんの方が参列し、早い時間に入場をストップされる程でした。安倍総理、他大臣など国会議員の方々も参列されました。

注目は、被爆者代表として長崎被災協の谷口稜暉会長が平和の誓いを行ったことでした。これまで長年平和運動をやってこられた谷口会長

の思いなど言葉一つ一つ心に響き、とても感動を覚える素晴らしい平和の誓いでした。（佐藤直子）

被爆体験の継承・中学校へ

8月9日、大瀬戸中学校で『被爆二世の私が思う“平和”とは』という講演を行いました。谷口会長の被爆体験と二世としての平和への思いを話しました。

校長、先生方と生徒144名が、今も体を張って活動を続ける谷口会長の話に心を打たれていました。

また、生徒達はとても純粋で、真剣に話に耳を傾けてくれました。

生徒達との意見交換会では「平和な世界」について話し合い、生徒達から「笑顔が絶えない世界」「位のない、みんながリベラルな世界」「言葉の壁がない世界」「国境の無い、ひとつの地球国」という意見など印象的でした。（岡本宏幸）

被爆体験の継承・熊本県二世・三世の会学習会へ

熊本県二世・三世の会が主催した学習会「ノーモアヒバクシャ第8回被爆体験を継承する会」に、私（佐藤直子）と池田早苗（長崎被災協理事）の父娘で講師として参加してきました。

9月26日（土）13：00～17：00 熊本の水前寺共済会館 芙蓉の間で行われ、被爆者・二世・三世・一般の方30名程が参加されました。

第18代高校生平和大使 熊本北高校2年 林 日向子さんによる欧州訪問報告の後、父 池田早苗による被爆体験講話があり、それに次いで私が被爆二世としてどういう風に証言活動をしているのか実演しました。

最後に会場の方からのたくさんの質問があり、父と一緒に答えしてきました。
（佐藤直子）

継承・北九州消費者大会へ



10月30日（土）ウェルとばた多目的ホールで10時～13時、北九州消費者大会が開催され、被災協の谷口会長と二世の会事務局長の柿田が参加しました。

谷口会長は被爆体験を話しました。柿田は被爆二世として母の被爆体験を話したあと、原爆症認定訴訟、被爆体験者の

訴訟、広島・黒い雨の被害者の訴訟が被爆70年の今でも起きている、国は被爆者の立場に立たず、放射線の被害を小さく見せようとしている、被爆二世には実態調査すら行っていないことなどを話しました。（柿田富美枝）

「核兵器廃絶国際デーの集い」

9月26日（土）10時より正午、平和公園祈念像前の「核兵器廃絶国際デーの集い」で核兵器廃絶をアピールしました。



長崎被災協と県原水協の共催で行われ、被爆者の訴えや参加者によるリレートーク、平和のうたごえ、原爆写真パネル展、署名行動、「平和を願う折り紙」コーナーなどで「被爆70年を核兵器廃絶の転機に」と長崎から「核兵器廃絶国際デー」を発信しました。

平和公園には海外からの観光の人も多く被爆パネルをじーっと見つめ、折り紙コーナーには学童クラブの子どもたち、指導員も参加し楽しんでいました。

その中で、「被爆 70 年ヒバクシャ遊説 in ヨーロッパ代表团」に参加され、帰国したばかりの被災協理事の横山照子さんがベルギー、オランダでの被爆証言を若い人が涙を流しながら聞いてくれたことなどを報告、あらためて被爆者の役割は重要だと思ったことや、今後の決意を発言されました。

また、潘基文国連事務総長が「核兵器廃絶国際デー」あたっての世界中へ核兵器のない平和な世界を求めている行動を呼びかけている「メッセージ」を被爆二世の会の堀洋美さんが読み上げました。

「核兵器廃絶国際デー」は2013年9月26日に初めての国連総会「核軍縮ハイレベル会合」が開催されたことにちなんで国連が決定、今年で2回目となります。核戦争の残虐さを身をもって体験した被爆者は、「核兵器と人類は共存できない」「核兵器の廃絶を」と訴え続けてきました。それが世界を動かしたものです。定着、発展させましょう。(佐藤澄人)



長崎市民平和大行進



10月24日(土)午前10時に平和祈念像前で集会が行われ、被災協と被爆二世の会、合わせて15名で爆心地公園まで行進しました。学童や中学生、老人会、平和団体、市民団体等も参加し、賑やかでした。

中国人などの観光客も笑顔で私たちの集会を笑顔で写真を撮っていました。

被災協と二世の会交流会 「九州ブロック相談事業講習会の成功をめざして」



11月7日(土)午前10時より正午まで被災協地下講堂で被爆者と二世合わせて24名が参加し交流会が行われました。

田中理事の司会で進行し、谷口会長が「皆で力を合わせて被爆70年の講習会を成功させよう」と挨拶しました。

横山理事は日本被団協被爆者相談所委員

会、相談事業講習会の歴史、意義などの説明を行い、成功させようと参加者で意思統一しました。当日の運営の内容について被災協事務局案を各班で論議しました。

それぞれ積極的な意見が出され、各班の意見を二世の代表が発表しました。

九州相談事業講習会準備への良いスタートを切りました。また各テーブルで笑い声があふれ、楽しい充実した交流会となりました。



「九州ブロック相談事業講習会」ぜひご参加ください！

日本被団協・中央相談所委員会・九州ブロック相談事業講習会は長崎市大鳥町のホテル清風で12月5、6日、開催。ぜひご参加ください！！

12月5日（土）14時～17時

講演

●「核兵器の禁止と廃絶へ：世界の動きと日本の課題」

長崎大学RECNA核兵器廃絶研究センター准教授 中村桂子氏

●「日本被団協の運動について」日本被団協事務局長 田中熙巳氏

●「被爆者の相談活動」日本被団協中央相談所委員会委員 伊藤直子氏

12月6日（日）9時～正午

講演

●「認知症になっても私らしい生き方逝き方」出口病院師長 井口三恵子氏

参加費等

参加される方は11月20日までにお振込ください。

振込用紙を郵送しますので、急ぎお電話ください。



●宿泊、懇親会込 15,000円 ●資料代、懇親会込 8,000円 ●講習会のみ参加は資料代 1,000円（講習会のみ参加の方も資料の準備の都合がありますので20日までにお電話ください。）



次回、二世の会会議は12月19日（土）15時より17時まで被災協地下講堂で行います。

そのあと望年会です。場所は未定ですが、会費4,000円くらいで17時半から浦上近辺の予定です。



被爆者の方で参加できる方には来ていただき、交流したいと思います。

二世の会会員の皆さん、ぜひご参加ください！！

参加できる方は電話やメールでご連絡ください。

被爆 70 年記念誌「ノーモアヒバクシャ」2015 年 8 月 9 日発刊

これまでに被爆して亡くなられたすべての被爆者へ鎮魂の思いを込めて被災協で作りました。

一橋大学名誉教授の演谷正晴氏の特別寄稿「長崎被爆者の戦後 70 年に寄せる」をはじめ、被爆者と二世 6 名で 50 名が寄稿しました。戦争のできる国づくりを許してはならないという思いを込めたこの 1 冊をぜひお買い求めください。二世の会からは佐藤直子、高森ひとみ、石見康子、堀洋美、佐藤澄人、柿田富美枝の 6 名も寄稿しています。

1 冊 1,500 円、送料 360 円です。メールやハガキや電話等でご連絡ください。



被爆二世健康調査にご協力を！

今回、ニュースに同封しています「被爆二世健康調査」にご記入の上、被災協へお送りください。

広島県被団協と広島の二世の会が広島大学の鎌田七男・名誉教授の監修のもと作成したものです。

調査には多くの二世の参加が必要ですので、用紙が足りない場合はコピーしていただくか、またはお送りしますので被災協へお電話ください。

被爆二世の健康面での要求として活用し、厚生労働省への要請に使用しますので、ぜひよろしくお願ひします。11 月末までに返送ください。